

「花と緑で被災地を元気にするプロジェクト」(仮称) に係る打ち合わせ次第 議事録(案)

日時：平成 25 年 7 月 31 日(水) 午後 3 時~5 時

場所：飯岡福祉センター研修室

出席：17 名 旭市市役所(企画政策課) NHK千葉放送局 コープみらい NHKアート 日本大学
千葉県青少年協会 i-L a b 光と風キャンペーン実行委員会 いいおか津波を語り継ぐ会

1. 事業概要説明及び合意形成

・市より報告

7 月 15 日に行った円卓会議のときの意見交換を踏まえ、最も重要なのは地元住民の意向であり、それを千葉大が主導し、NHKによるPR、区長会、光と風その他の活動を、市役所(企画政策課)が繋ぐという概要について説明があった。

・意見交換

「CG(千葉大学園芸学部)PJ今後の活動についての打ち合わせ報告書(7 月 25 日付)」が配布され、それをたたき台として、旭市の用意した次第にそって意見交換をした。

千葉大の東北での経験を活かし有意義のものにしたい。地元住民が積極的にかかわる活動が成功の鍵だ。賛同者を増やし賛助金を集める上でNHKによるPRが極めて有効だ。市役所もかわるが、飯岡区長会の協力が不可欠だ。堤防の清掃に関して漂砂に関するクレームがあり延期したこともあった。復興観光まちづくりコンペの作品に、同趣向のいいアイディがあった。千葉大はじめ日大など、大学間の連携ができないか。

若い人の参加を促そう。津波被害のあった保安林に小学生がクロマツの植樹する写真が表紙を飾った広報あさひ(H24/3/1)「大人たちの海との戦いを見てきた2人の少年が、毎日海岸に打ち寄せられた飯岡石を一つずつ積み上げて、そして「我らの波止」という小高い石の山を築いた。子どもたちの行動と地域の熱意がやがて国をも動かしていった。私たちは今、再び自然の猛威にさらされ、そして立ち上がろうとしている。つながろう、この町で、伝えよう、子どもたちの笑顔のために——。」が紹介された。旭市立小中学校や県立2高(旭農高・東総工高)の協力も不可欠だろう…など、多々意見が出された。また、市役所から土盛りの新堤防が完成後に、ぜひ植栽を行いたいとの発言もあった。

「花プロジェクトを来年 3 月 11 日だけで終わらせず、長く継続できるようなかたちにする」という合意が確認された。具体案 7 件を読み上げ確認したが、経費・動員などエリアも規模も様々なため、必要な根拠資料を持ち寄り、千葉大が参加する次回の会議で審議する事にした。

2. 受け皿組織の立ち上げ

・構成メンバー等

本日の参加の団体個人を含め、より多くの賛同者を増やす。その目的のため、次を全員一致で決めた。なお、花プロジェクトの母体を協議会とし、この会合を発足準備会と位置づける。

- ・組織の名称 花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会 ←被災地を旭に変更し、協議会を付ける。
- ・代表者 会長 戸井 穰(とひ ゆたか) (旭市飯岡地区区長会会長)
副会長 渡邊義美(わたなべ よしみ) (光と風キャンペーン実行委員会代表)
- ・事務局 旭市市役所(企画政策課)
- ・会計担当 光と風キャンペーン実行委員会事務局 ←活動資金の口座開設と管理

3. 次回会議予定

日時：平成 25 年 8 月 18 日(日) 15:00~17:00

場所：飯岡福祉センター多目的室

以上(記録：光と風キャンペーン実行委員会事務局)